那覇市文化財調査報告書第 103 集

天　久　貝　塚

―天久急傾斜地崩壊対策工事に伴う緊急発掘調査―

２０１６年３月

那覇市 文化財課

序

本書は、平成 26（2014）年度に天久急傾斜地崩壊対策工事に伴う埋蔵文化財「天久貝塚」の緊急発掘調査の成果を収録したものです。

那覇市字古島から天久にかけて延びる丘陵西端部の崖壁にはギリチ原貝塚、崎樋川貝塚、天久グスク、天久遺跡といった遺跡が点在しております。そのうちの一つである天久貝塚は、天久遺跡の西側崖下に形成される沖縄貝塚時代前期の遺跡です。1977 年の沖縄県教育委員会発行の「沖縄県の遺跡分布」によれば、貝塚時代前期の土器や貝製品、骨製品が出土したとあります。その後採石・宅地造成により壊滅状態となったとありますが、今回の発掘調査において土器や石器、貝製品の出土を確認する事が出来たことは大変喜ばしい限りです。

近年開発行為をおこなう際には埋蔵文化財の確認とその後の協議が必要である事が周知され、市民の皆様のご理解のもと、文化財保護法に則した手続きが行われるようになりました。今回も沖縄県南部土木事務所の文化財保護に対する御理解・御協力があったことで発掘調査を行う事が出来ました。

那覇市には開発により既に破壊されてしまった貝塚が多数存在します。皆様のご理解のもと、今後発掘調査が進むことで、古い時代の那覇市の様相が一層明らかになる事でしょう。

また埋蔵文化財発掘調査はどのような目的であれ、調査対象の遺跡の現状を損なうものです。発掘調査報告書は現状保存できなかった遺跡の内容を示す唯一の記録刊行物となります。この文化財報告書が市民の皆様はもとより多くの方々に活用されることを切望致します。

末尾になりましたが、発掘調査および資料整理にあたり、御指導・御助言を賜りました諸先生方、ならびに事業の実施にあたり御協力を賜りました関係各位の皆様に深く感謝申し上げます。

平成 28 年 3 月

那覇市長　城間　幹子

例　言

1．本書は那覇市市民文化部文化財課が沖縄県南部土木事務所の委託を受けて平成 26 年から平成 27 年度に実施した天久貝塚緊急発掘調査の成果を収録したものである。

2．発掘調査は「天久急傾斜地崩壊対策工事」に伴うもので、平成 26 年度において那覇市市民文化部文化財課が実施し、平成 27 年度に資料整理・報告書作成を行った。

3．貝・骨類については、下記の方々に教示を得た。記して感謝する。

貝類　黒住　耐二氏（千葉県立中央博物館）
骨類　樋泉　岳二氏（早稲田大学）
　　菅原　広史氏（浦添市教育委員会）

4．編集・執筆は長濱愛梨・吉田健太の協力を得て、島　弘が行った。執筆分担は下記のとおりである。

島　弘　　第Ⅰ～Ⅳ章、第Ⅴ章第 1・2 節、第Ⅵ章
長濱　愛梨　第Ⅴ章第 3 節・第 4 節
吉田　健太　第Ⅴ章第 5 節・第 6 節、第Ⅵ章

5．調査体制及び成果の記録

（1）調査体制

発掘調査及び報告書作成は次の体制により実施された。

事業主体	那覇市		市長	城間　幹子
事業所管	〃	文化財課	課長	古塚　達朗
調査総括	〃	〃	副参事	島　弘
調査事務	〃	〃	主査	新里　清美
	〃	〃	主事	高嶺　朝美
調査員	〃	〃	副参事	島　弘
〃	〃	〃	学芸員	吉田　健太
〃	〃	〃	埋蔵文化財専門主事	長濱　愛梨

（2）発掘作業員　ムトウ建設による直接雇用　　桑江利尚・樋口光子・阿部直子

（3）成果の記録（資料整理）　野村知子・影島彩恵・豊里加奈子・高嶺昌也・新垣裕子

6．第２図は、国土地理院発行のものを複製した。

7．第３・４・５・６図の座標値については実測した値ではなく、計画平面図（南部土木事務所提供）より得た座標値を編集・引用したものである。

8．出土した資料については、すべて那覇市市民文化部文化財課で保管している。

沖縄諸島の土器編年

時期区分		土器型式	沖縄諸島発見の縄文・弥生式土器	その他の年代資料
前期	Ⅰ	ヤブチ式土器 東原式土器	爪形文土器	ヤブチ式 6670±140y. B. P. 東原式 6450±130y. B. P.
	Ⅱ	曽畑式土器 条痕文土器 室川下層式土器	曽畑式土器 条痕文土器	曽畑式（渡具知東原） 4880±130y. B. P.
	Ⅲ	?		
	Ⅳ	伊波式土器 萩堂式土器 大山式土器 室川式土器	出水系土器 市来式土器	伊波式（熱田原） 3370±80y. B. P. 伊波式（室川） 3600±90y. B. P.
	Ⅴ	室川上層式土器 宇佐浜式土器		宇佐浜式は黒川式 並行とみられる
後期	Ⅰ	?	板付Ⅱ式 亀ノ甲類似土器	
	Ⅱ	具志原式土器	山ノ口式土器	
	Ⅲ	アカジャンガー式土器	↑ 免田式土器 ↓	アカジャンガー式は 中津式並行とみられる
	Ⅳ	フェンサ下層式土器		類須恵器

高宮1981より引用

報 告 書 抄 録

ふ り が な	あめくかいづか
書　　名	天久貝塚
副 書 名	天久急傾斜地崩壊対策工事に伴う緊急発掘調査報告
巻　　次	
シリーズ名	那覇市文化財調査報告書
シリーズ番号	第103号
編 著 者 名	島 弘・吉田健太・長濱愛梨
編 集 機 関	那覇市市民文化部文化財課
所 在 地	〒900-8585　沖縄県那覇市泉崎1-1-1　　TEL 098-917-3501
発行年月日	西暦　2016年　3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふ り が な 所　在　地	コ ー ド 市町村	 遺跡番号	北 緯 °′″	東 経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
あめくかいづか 天久貝塚	おきなわけん 沖 縄 県 なはしあめく 那覇市天久	47201		26度 12分 36秒	127度 40分 18秒	2014.12 ～ 2015.1	約16㎡	天久急傾斜地崩壊対策工事に伴う緊急発掘緊急発掘

所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項
天久貝塚	貝塚	縄文時代後期	近世の帯状遺構	荻堂式土器 大山式土器 沖縄産陶器瓦 銭貨等	エイの尾棘を加工した鏃状骨製品が出土。

目　　次

序

例言

報告書抄録

第Ⅰ章　調査に至るまでの経緯 …… 1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 1
第Ⅲ章　調査経過 …… 5
第Ⅳ章　層序と遺構 …… 5
　第１節　層序 …… 5
　第２節　遺構 …… 9
第Ⅴ章　出土遺物 …… 9
　第１節　土器 …… 9
　第２節　石器 …… 18
　第３節　骨製品 …… 22
　第４節　貝製品 …… 22
　第５節　骨類 …… 25
　第６節　貝類 …… 25

第Ⅵ章　まとめ …… 32

第Ⅰ章　調査に至るまでの経緯

沖縄県南部土木事務所では、天久丘陵一帯の土砂崩れを防ぐ急傾斜地崩壊対策工事の計画を行っていた。同計画段階で那覇市天久 1169 番地内においての埋蔵文化財の事前調整願文書が平成 26 年 9 月 9 日付けで照会が成された。当市文化財課では、当該地域は周知の埋蔵文化財「天久貝塚」に近接しているため、同年 10 月 2 日に工事の立会い調査を実施した。立会い調査の結果、土器・石器・貝製品などを含む遺物包含層が確認され、壊滅していると思われた「天久貝塚」が確認された。

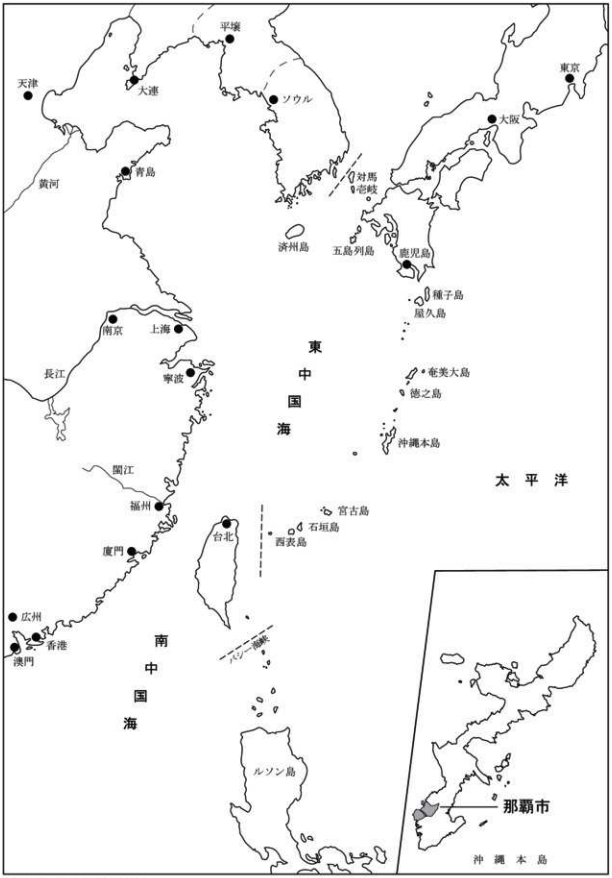
当市文化財課は立会い調査の成果を踏まえて、沖縄県南部土木事務所と発見された埋蔵文化財「天久貝塚」の取り扱いについて速やかに協議を行った。協議の結果、工事計画の変更は極めて困難であり、やむを得ず記録保存の措置をとることとなった。

その後、沖縄県南部土木事務所は平成 26 年 10 月 27 日付けで文化財保護法第 93 条の規定に基づき「埋蔵文化財通知」を提出した。これについて市民文化部文化財課は文化庁の指導により、同年 11 月 5 日付けで「工事着手前に発掘調査を実施」するように送付通知した。その結果、調査に要する経費は沖縄県南部土木事務所が負担し、調査を当市民文化部文化財課が実施することとなった。調査は平成 26 年 12 月 1 日より開始された。

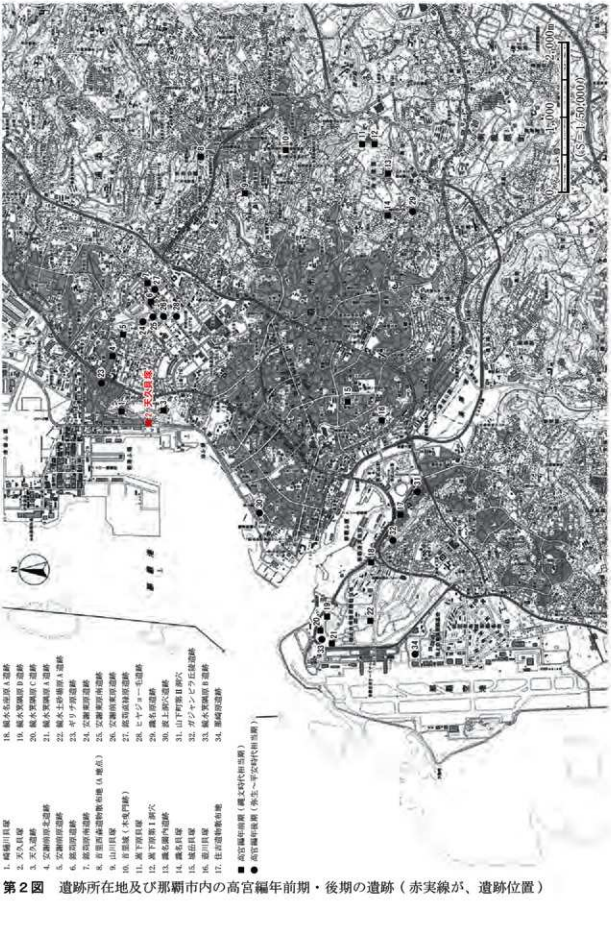
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

天久貝塚は、沖縄県那覇市字天久に所在する。那覇市は東シナ海に面した沖縄本島南西部にあり、北に浦添市、東に西原町、東南に南風原町、南に豊見城市と隣接する県内の人口の約 4 分 1（約 33 万人）を擁する沖縄の政治・経済の中心都市である（第 1 図）。

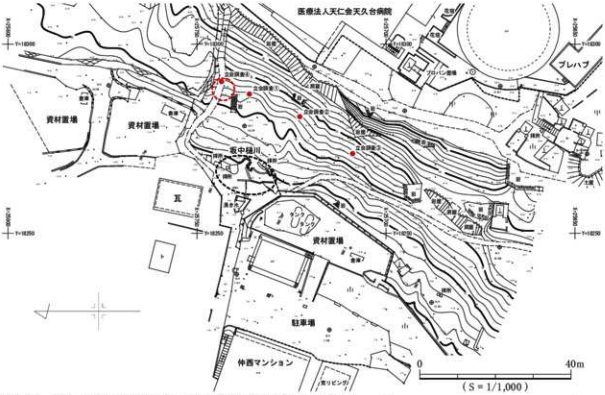
本市は、ほぼ略三角形を呈し東西に約 11ｋｍ、南北に約 8ｋｍを測り面積約 37.89ｋ㎡を占める。地形的には東シナ海側の市街地は標高 2～10ｍの沖積地を琉球石灰岩の台地が北より天久台地、東に首里台地、南に識名台地・小禄台地が取りまき大きく低地と石灰岩台地に分けられる。また、市内には台地より低地に安謝川・安里川・国場川などが東シナ海へ流れ込む。市内は首里地区・那覇地区・真和志地区・小禄地区の 4 つに区分される。真和志地区は市内のほぼ中心地に展開する地域である。字天久その真和志地区の北西に位置し、周辺に天久台地が展開する。本遺跡は、その天久台地の崖下に占地する。天久台地は、標高 45ｍ前後の琉球石灰岩の丘陵が南北に延び前面には東シナ海が展開し、慶良間諸島や読谷方面も指呼の間に見える。また、崖下には湧き水が豊富で、著名な崎樋川や本遺跡の直下には坂中樋川の井泉が見られる。このような自然環境は、天久貝塚の人々に生活の糧や喉を潤し、豊かな自然の恵みを大いにもたらしたものと思われる。


平壌
天津
大連
ソウル
東京
大阪
黄河
青島
対馬
壱岐
済州島
五島列島
鹿児島
種子島
屋久島
南京
上海
長江
寧波
東
中
国
海
奄美大島
徳之島
沖縄本島
閩江
太 平 洋
福州
宮古島
石垣島
台北
西表島
廈門
広州
香港
澳門
南
中
国
海
バシー海峡
ルソン島
那覇市
沖 縄 本 島

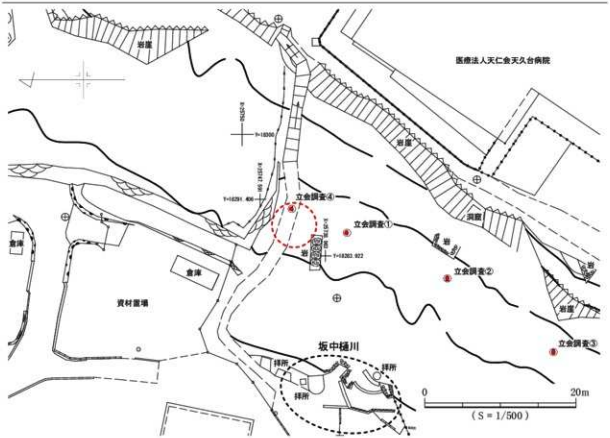
第１図　那覇市の位置



第２図　遺跡所在地及び那覇市内の高宮編年前期・後期の遺跡（赤実線が、遺跡位置）



第３図　天久貝塚の位置（S = 1/1,000）赤丸が貝塚の位置



第４図　天久貝塚の位置（S = 1/500）赤丸が貝塚の位置

第Ⅲ章　調査経過

本遺跡の調査は 2014 年 12 月 1 日より 2015 年 1 月 14 日までの約 1 ヶ月半行った。調査は遺跡の表面・断面整理作業より開始した。それに合わせて、グリッド設定も実施した。グリッド設定はほぼ磁北に沿った基準線を設け、４×４ｍを単位とした方眼を調査区に設定した。南北の軸を北側より「99、98・・・」、東西の軸を「か、き・・・」と付し、グリッド読みを「か－99、か－98・・・」と呼称した。調査は「き」ラインと「99」ラインに土層観察用の畦を残し、か－99、き－99、き－98 の 3 グリッドより本格的に調査を開始した。

調査の進め方としては、遺物包含層が崖面上部よりの流れ込みの堆積状況を呈していたので、上部の茶褐色土・腐植土（撹乱層）を剥ぎとるように下部へ掘り進めた。2 層面より礫敷き遺構が帯状に検出された。その遺構内より沖縄産陶器（壺屋焼）等が出土しており、本遺跡とは直接関連するものでなく近世期の遺構と解釈した。その後、礫敷遺構を除去後、下位の 3・4 層と掘り進めた。特に、3 層は転石の混入が著しくその間に挟まっている遺物の取り出しには困難をきたした。最終的には、地山の赤土・岩盤などを露出させ、翌年の 1 月 14 日にすべて調査を完了した。

第Ⅳ章　層序と遺構

第 1 節　層序

今回の調査区の層序は、基本的に崖上の天久貝塚から流れ込みが 2 次堆積したものである。堆積状況は東側から西側へとなるが、いずれの層にも大小の転石が含まれる。第 1 層は戦後堆積したもので、第 2 層が戦前～近世時期に相当する。その下位に広がる第 3 層が遺物包含層である。最終的には淡い黄褐色土層を含めた 4 層が確認された。以下、層序について特徴的なことを略述する。

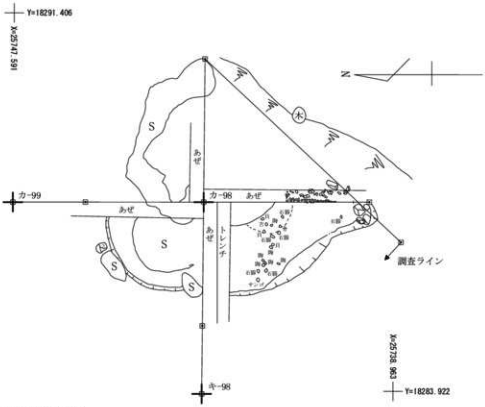
第 1 層（表土層）：撹乱層で陶器類に混じりビニール等の現代遺物が出土した。また、調査区の中心部「き－99」グリッド周辺では、レンズ状に堆積した腐植土層も検出された。

第 2 層　：粘質の茶褐色土で調査区全面に見られた。土器・沖縄産陶器片が僅かに出土した。本層下部において、帯状の礫敷遺構が検出された。

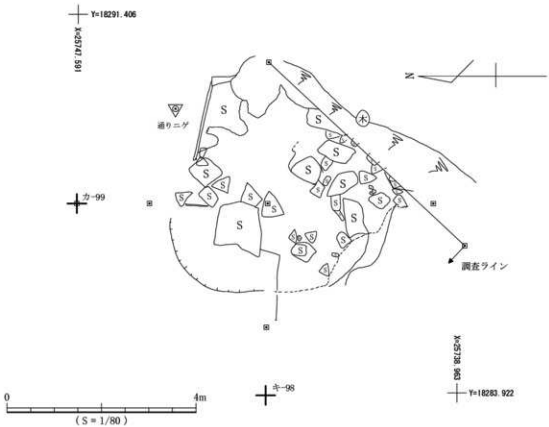
第 3 層　：基本的に黒褐色土層（下部）で、流れ込みによる茶褐色土層が混入する。下部は黒色が強く遺物が豊富に出土した。特に、陸産マイマイ類の出土が顕著で、土器集中部も確認された。

第 4 層　：その下位は淡い茶褐色土層で、岩盤に張り付くように堆積が見られた。遺物の出土は希少であった。

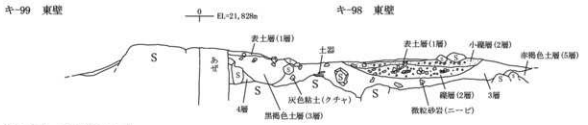
第 5 層（地山）：琉球石灰岩と黄褐色土層（方言でマージ）



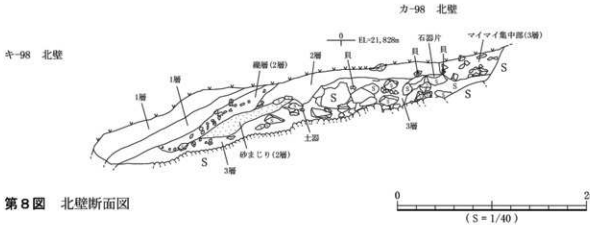
第５図　遺構図（礫敷遺構）



第６図　遺構図（完堀状況）



第７図　東壁断面図



第８図　北壁断面図

図版１　東壁断面

図版２　北壁断面

第１表　出土遺物一覧（層序）

出土地	分類		土器	石器	貝製品	骨製品	貝類	骨類	合計
カ－98	1層		2	4			65	6	77
	2層	2層	7	2			98	14	121
	3層	3a層					534	17	551
		3b層	4	3			183	7	197
		3層	3	2			229	46	280
	4層						9	4	13
カ・キ－98	2層	縄敷遺構					19		19
		2a層					35		35
		2層		1			25	20	46
	3層		2	2			49	3	56
	4層		1				377	44	422
カ－99	1層	1層	12	6		1	344	60	423
		石列		1			16		17
	2層		27	9	1		1406	226	1669
	3層		23	10		2	810	96	941
	4層		1				112	9	122
キ－97	1層						1		1
キ－98	1層	1層		1			24	1	26
		石列					9		9
	2層	縄敷遺構		10			78	9	97
		2a層					69	25	94
		2層	3	6			317	59	385
	3層		5	5			305	31	346
	4層		3	5			769	56	833
キ－99	1層	1層					3	1	4
		石列		1			15		16
	2層			2			11	2	15
	4層			1			221	8	230
不明	1層		9	6			105	36	156
合　計			102	77	1	3	6238	780	7201

第２表　出土遺物一覧(層序以外)

出土地	分	土器	石器	貝製品	骨製品	貝類	骨類	合計
カ－98	東壁 3層 3a層		3			151	3	157
	東壁 3層	19	10	1		754	387	1084
カ－99	東壁 3層	3	1			2		6
立会表採			2			1		3
立会調査②			4					4
立会調査③			1	1				2
立会調査④		4	3	1		51	7	66
合　計		26	24	3	0	959	397	1322

※土器は口縁部・底部のみの集計。
※貝類・獣魚骨は破片数。

第２節　遺構

遺構は、「き－98」グリッドで確認された帯状に延びる礫敷遺構のみであった。第１層を除去後、第２層の発掘中に琉球石灰岩の礫が集中して検出されはじめ、最終的には幅 1mでグリッドの東側の崖下面より北側の大型の岩へ弧状に延びる形で検出された。礫敷の礫のサイズには２種見られ、北側の礫は小降りで、南側の礫は拳大の礫を敷き詰めるようであった。時期差なのか工法の差異なのか判然としなかった。礫の表面を仔細に見ると、破損面には磨耗は見られず鋭利感が見られた。遺物としては、礫の間には沖縄産陶器等が見られ、近世の時期の遺構と解した。この礫敷遺構面での周辺状況は一定の平場面が見られた。

第Ⅴ章　出土遺物

本遺跡から得られた遺物は、自然遺物と人工遺物に分けられる。遺跡が貝塚のため、圧倒的に貝類が多く出土し、骨類は僅かであった。人工遺物は土器・石器・骨製品・貝製品などが得られた。その他に撹乱層や礫敷遺構より琉球王府時代以降の遺物も得られた。ここでは、第３・４層の前Ⅳ期相当期の出土遺物を中心に報告する。本層から得られた遺物は、土器と石器・骨製品・貝製品であった。第３層は本遺跡のメインの層である。第４層は岩盤にへばり付いた遺物と地山への移行層より出土した遺物である。以下、一括して略述する。

第１節　土器

土器は、第１表に示すとおり総数 128 点得られた。その殆どが、破片で器形を知りえる土器は僅かであった。分類は型式で分け、判別が困難なものは伊波・荻堂系と呼称した。底部は一括した。基本的に分類概念は銘水名座原Ａ遺跡[註1]を参考にした。掲載した個々の資料は、観察表に示した。以下、古我地原式より略述する。

（古我地原式土器）

第９図１に示したもので、山形口縁のものである。文様は偏平な凸帯と周辺に斜線を施す。うるま市古我地原貝塚[註2]で確認された土器である。

（嘉徳式土器）

第９図２に示したもので、組み帯の沈線が施されている。

（伊波・荻堂系）

第９図３から７に示したものである。3は叉状工具を用いて横位に点刻文を施すものである。4は瘤を持つ山形口縁のもので、その下位に単篦によって横位文と鋸歯文を施す。5は山形口縁で単篦により押し引き文を口唇部・口縁部に施したものである。6は山形口縁の寸胴形のもので、口縁部に叉状工具を用いて点刻文を施す。7は屈曲した胴部片で、縁部下位

に押捺刻文を斜位に巡らしたものである。

（大山式土器）

第 9 図8から第 10 図 14 に示した。本貝塚のメインの土器である。単篦工具を用いて押捺刻文・押し引き文を描く土器群である。第 10 図 9 は押捺刻文と押し引き文を巡らすもので、第 10 図 12・13 は凸文と組み合わせたものである。12 は鏡水名座原Ａ遺跡より同種のものが出土している。14 は押し引き文と沈線と組み合わせたものである。

（室川式土器）

第 10 図 15 に示したもので、口唇部を幅広に肥厚させたものである。その下位に押し引き文を施している。石灰質砂粒が多量に混入したものも含めた。

（カヤウチバンタ式土器）

第 10 図 16 に示した。断面がカマボコ状を呈するもので、押捺刻文が施されている。

（無文土器）

第 11 図 17 から 22 に示したものである。17 は荻堂式、18 は伊波・荻堂系、19～21 は口唇部を平坦に成形するものである。19 は手触りのザラザラする土器で、20・21 は室川式と思われる。22 は伊波・荻堂系の頸部の短い壺形と思われる。

（底部）

第 12 図 23～27 に示した。いずれも平底であるが、26 のみは上げ底状に成形されている。22～25 は伊波・荻堂系と思われ、26 が室川系と思われる。27 は底径が小さく小型の土器のようである。底面は剥離が見られる。

註１：北條真子・伊波かおり他「鏡水名座原Ａ遺跡」那覇市教育委員会　2011 年
註２：島袋洋他「古我地原貝塚」沖縄県教育委員会　1987 年

第 3 表　土器出土一覧(層序)

出土地＼分類		有文								無文								後期系	不明	合計
		伊波・荻堂系	荻堂式			大山式	室川式	不明 肥厚口縁系	不明	伊波・荻堂系		荻堂式	室川式	宇佐浜式	不明 肥厚口縁系	不明				
										盍										
グリッド	層序	口縁部	口縁部	コブ	胴部	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	底部	
カ−98	1層																		2	2
	2層		2			1			1	3										7
	3層 3b層		1							1	1	1								4
	3層 3層					2													1	3
カ・キ−98	3層							1		1										2
	4層																		1	1
カ−99	1層					5			1							1			5	12
	2層	1	4			5			1	4			3						9	27
	3層		2			3	1			3			1	1	1				11	23
	4層																		1	1
キ−98	2層									1								1	1	3
	3層				1	1													3	5
	4層																		3	3
不明	1層		3	1		3							1	1						9
合計		1	12	1	1	20	1	1	3	13	1	1	5	2	1	1	1	1	37	102

※土器の集計は口縁部・底部のみ
※表中の胴部は図版掲載のみ

第 4 表　土器出土一覧(層序以外)

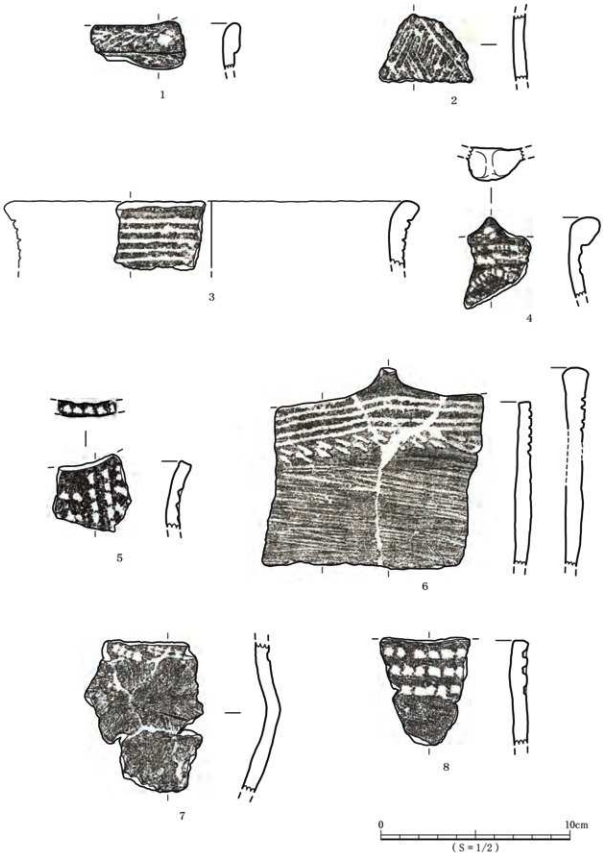
出土地＼分類		有文				無文		不明	合計
		古我地原式	嘉徳式	荻堂式	大山式	伊波・荻堂系	室川式		
グリッド	出土地	口縁部	胴部	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部	底部	
カ−98	東壁 3層	1	1	7	5			5	19
カ−99	東壁 3層				1		1	1	3
立会調査④				1	2	1			4
合計		1	1	8	8	1	1	6	26

※土器の集計は口縁部・底部のみ
※表中の胴部は図版掲載のみ

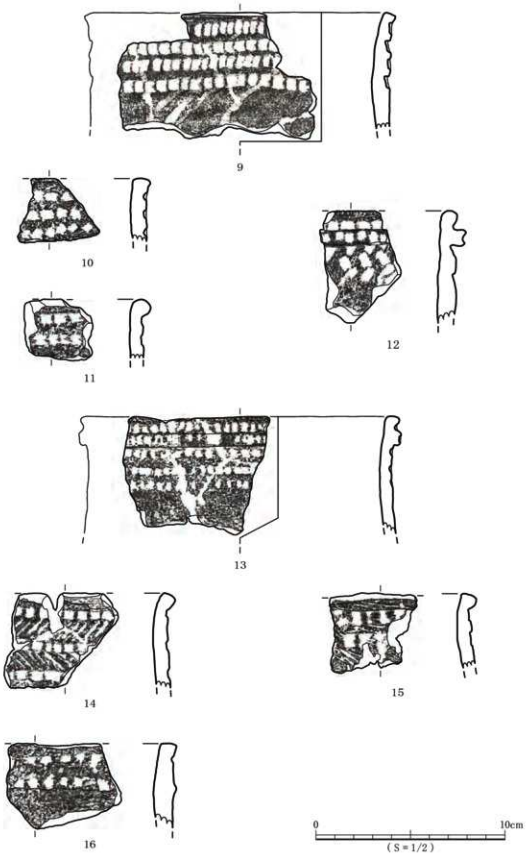
第５表　土器観察一覧

挿図番号 図版番号	器種 部位	口　径 器　高 高台径	胎土・焼成	文様	外面 芯部 内面	備考	出土地点
第9図1 図版10の1	口縁部 深鉢形	－ － －	赤褐色で微砂粒 石英を混入。 微粒子で良好。	凸帯文に斜位の沈線。	茶褐色 赤褐色 赤褐色	薄手の土器である。	か－98 東壁 3層
第9図2 図版10の2	縁部 深鉢形	－ － －	淡茶褐色で微砂粒を混入。 微粒子で良好。	沈線の組帯文	淡赤褐色 淡茶褐色 淡赤褐色	〃	〃
第9図3 図版10の3	口縁部 深鉢形	13 － －	赤褐色で微砂粒 チャートが観察 される。 微粒子で良好。	叉状工具による押し引き文	〃	口唇部を平坦に成形。	表採
第9図4 図版10の4	〃	－ － －	〃	単箆による押し引き文。	赤褐色 赤褐色 赤褐色	瘤状の山形口縁部。	か－99 北壁 3層
第9図5 図版10の5	〃	－ － －	茶褐色で微砂粒を混入	〃	茶褐色 灰茶褐色 淡赤褐色	山形口縁で口唇部にも施文。	清掃 1層
第9図6 図版10の6	〃	－ － －	〃 粗め粒子。弱良好。	単箆による刺突文。	茶褐色 淡茶褐色 淡赤褐色	口唇部を平坦に成形。	
第9図7 図版10の7	胴部 深鉢形	－ － －	〃	肩部の上に斜位に押し引き文。	淡黒褐色 淡茶褐色 淡赤褐色	胴下半部は焼黒褐色を呈する。	き－98 3層
第9図8 図版10の8	口縁部 深鉢形	－ － －	赤褐色で微砂粒 チャートを混入。 粗粒子で弱良好。	単箆による刺突文。	淡茶褐色 淡茶褐色 淡茶褐色	口唇部を平坦に成形。	か－98 3層
第10図9 図版11の9	口縁部 深鉢形	16.4 － －	茶褐色で微砂粒 チャートを混入。 微粒子で良好。	単箆による押し引き文。	茶褐色 茶褐色 赤褐色	口唇部を平坦に成形。	か－98 東壁 3層
第10図10 図版11の10	縁部 深鉢形	－ － －	淡茶褐色で微砂粒を混入。 微粒子で良好。	単箆による刺突文。	淡赤褐色 淡茶褐色 淡赤褐色	〃	き－98 3層
第10図11 図版11の11	口縁部 深鉢形	－ － －	淡茶褐色で微砂粒 チャートが観察 される。 微粒子で良好。	単箆による押し引き文。	黒褐色 淡茶褐色 淡茶褐色	口唇部をやや肥厚ぎみに成形。	か－98 東壁 3層
第10図12 図版11の12	〃	－ － －	〃	単箆による押し引き文と凸帯文	赤褐色 赤褐色 赤褐色	口唇部を丸みに成形。	〃
第10図13 図版11の13	〃	16.8 － －	〃	〃	茶褐色 灰茶褐色 淡茶褐色	〃	清掃 1層
第10図14 図版11の14	〃 〃	－ － －	淡茶褐色で微砂粒を混入。 微粒子で良好。	単箆による押し引き文と斜位の沈線文	茶褐色 淡茶褐色 淡茶褐色	〃 〃	か－98 東壁 ３層

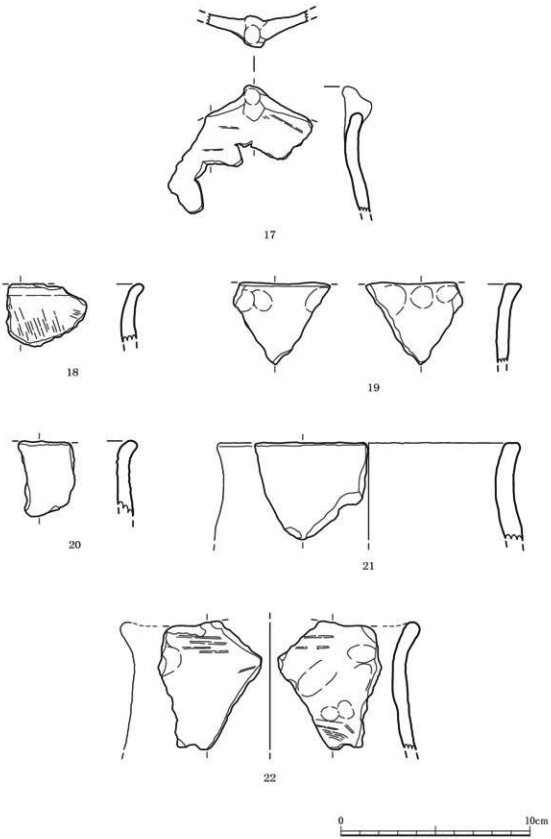
第10図15 図版11の15	〃	－ － －	〃	単篦による押し引き文。	茶褐色 淡茶褐色 淡茶褐色	表面は細かい擦痕。やや肥厚ぎみに成形	か－99 ２層
第10図16 図版11の16	〃	－ － －	茶褐色で微砂粒を混入。 微粒子で良好。	〃	淡茶褐色 淡茶褐色 淡茶褐色	肥厚帯を持つ	か－98 き－98 3層
第11図17 図版12の17	深鉢形	－ －	砂粒・チャート等を混入。 良好。		淡茶褐色 淡赤褐色	縁部。瘤状には凹が見られる。	3ａ層
第11図18 図版12の18	〃	－ － －	赤褐色で微砂粒チャートを混入。 粗粒子で弱良好。	〃	淡黒褐色 淡茶褐色 淡赤褐色	縁部に斜位の擦痕が顕著。	か－98 2層
第11図19 図版12の19	〃	－ － －	淡い茶褐色で粗砂粒・チャート等を混入。 良好。	〃	淡茶褐色 淡茶褐色 淡茶褐色	口唇部を平坦に成形。混入物が露出し手触りザラザラする。	か－99 アゼ 10～20
第11図20 図版12の20	〃	－ － －	淡い黄褐色で粗砂粒を多量に混入。	〃	淡黄褐色 淡黄褐色 淡黄褐色	器表面は細かい凹凸が見られる。	か－99 東壁 3層
第11図21 図版12の21	〃 〃	16 － －	淡い茶褐色で微砂粒と多量に石英・チャートを混入。良好。	〃	淡茶褐色 淡茶褐色 淡赤褐色 淡赤褐色	厚手の土器で口唇部を平坦に成形。裏面は手触りがザラザラする。	か－99 3層
第11図22 図版12の22	口縁部 壺？	6.6	淡い茶褐色で微砂粒・チャート等を混入。 良好。	〃	淡茶褐色 淡茶褐色 淡赤褐色	山形口縁？ 縁部に横位の擦痕が観察さる。	か－98 2層
第12図23 図版13の23	底部 深鉢形	5.2	淡い黄褐色で微砂粒・石英等を混入。 良好。	無文。	淡茶褐色 淡茶褐色 淡黄褐色	器表面は丁寧に成形。	か－99 黒褐色土層 北壁
第12図24 図版13の24	〃	7.8 － －	赤褐色で微砂粒チャート等を混入。 粗粒子で弱良好。	〃	淡黒褐色 淡茶褐色 淡赤褐色	〃	〃 東壁
第12図25 図版13の25	〃	10.5 － －	〃	〃	淡赤褐色 淡赤褐色 淡赤褐色	〃 内面は焼成が弱いため器壁が脆い。	か－99 茶褐色土層
第12図26 図版13の26	〃	3.5 － －	淡い灰褐色で微砂粒を混入。 微粒子。	〃	淡赤褐色 淡灰褐色 淡灰褐色	底面は輪積みで剥がれている。	か－98 礫集中部上
第12図27 図版13の27	〃 〃	16 － －	淡い黄褐色で多量に砂粒と礫を混入。弱良好。	〃	淡黄褐色 淡黄褐色 淡黒褐色	底面は上げ底状を呈している。第9図4と同タイプか。	か－99 東壁 黒褐色土層



第９図（図版10）　土器（１～８）

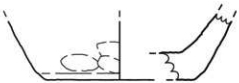


第10図（図版11）　土器（9～16）



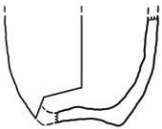
第 11 図(図版 12)　土器 (17 ～ 22)

23



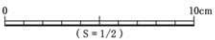
24

25



26

27



第 12 図(図版 13)　土器 (23 ～ 27)

第2節　石器

石器は第6・7表に示したとおり、石斧・敲石・磨石・敲石＋磨石・石皿などが得られた。主体は敲石・磨石系である。掲載した個々の資料は観察表（第 8 表）を示した。以下、石斧より記述する。

石斧（第13図1～5）

石斧はいずれも磨製石斧で 5 点得られた。いずれの石材も中南部では見られない砂岩系のものである。その中より特徴的なもの示した。第13図1は刃部のみを磨き、周辺を打割調整を施した偏平な石斧である。局部磨製石斧と考えられる。第13図2は敲石等に2次使用されたもので、刃先に敲き痕が残る。第13図3は刃部より破損したもので、表面に磨きが残る。本品も2次使用されたものと思われ、刃部に敲き痕が観察される。第13図4はバチ形のもので、表裏面とも丁寧に磨かれており、刃部より破損したものである。第13図5もバチ形のもので、長軸にやや変形した石材を用いたもので、表裏面磨きが残る。本品も刃部より破損している。第13図2・5の側面は敲打による調整が明瞭に観察される。

敲石＋磨石・磨石・石皿等（第14図6～8）

第14図6は敲石＋磨石で表裏面は丁寧に磨かれている。表面と側面は敲き痕が残る。第14図7の磨石は、表裏面に細かい筋状のラインが弧状に観察される。かなり使用されたものと思われる。第14図8は石皿の破片で、表面に磨り減った窪みが見られる。第14図7の磨石とは同グリッド・同層より得られておりセットと思われる。

第6表　石器出土一覧(層序)

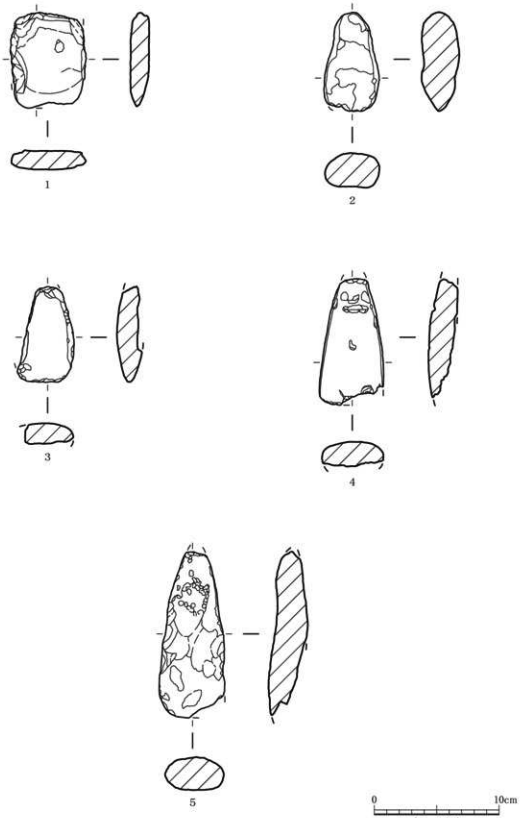
出土地	分類	石斧	石斧片	石鏃	石鏃片	すり石	すり石片	すり石・たたき片	大型すり石・石片	大型すり石・たたき片	不明	ニーピ・不明	敲石	軽石	合計
カ-98	1層						3				2				4
	2層										2				2
	3層	1					1							1	3
	3a層						1	1							2
	3b層						1								1
カ+キ-98	2層						1					1			2
	3層						3	1	1		1				6
カ-99	1層	1													1
	石列						5	1		1	2				9
	2層					1	6	1			2				10
	3層														0
キ-98	1層	1													1
	2層	現象確認	1		1		2	1			3			2	10
	3層	1			1			1			1		1	1	6
	3層			1		1		1			1			1	5
	4層						2				2			1	5
キ-99	1層						1								1
	石列						2								2
	2層														0
	4層							1							1
不明	1層							5	3		1	1			10
合計		4	1	1	2	2	27	9	4	1	17	2	1	6	77

第7表　石器出土一覧(層序以外)

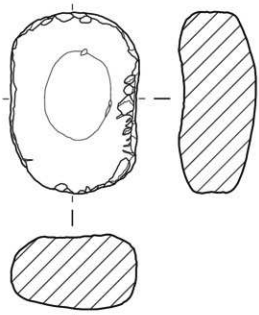
出土地	分類	石斧	石鏃片 ふ-7	たたき石	すり石片	すり石・たたき片	大型すり石片	不明	ニーピ・不明	合計
カ-98	東壁 3a層	1			1				1	3
	東壁 3層	2	1		2	3			1	10
カ-99	東壁 3層	1								1
	立会調査		1		1					2
	立会調査②					4				4
	立会調査③						1			1
	立会調査④		1	1	1					3
合計		4	3	1	6	3	1		3	24

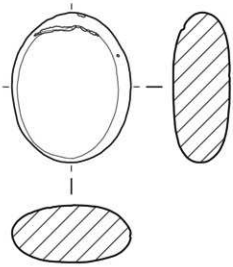
第８表　石器観察一覧

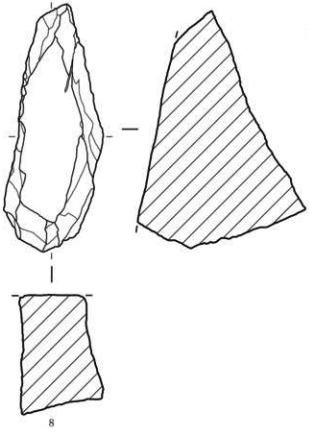
挿図番号 図版番号	器種	長軸 短軸 厚さ 重さ	特徴	出土地点
第13図　1 図版14の　1	石斧		淡い緑褐色を呈し、偏平な石器である。 刃部のみを磨き、端部は打割調整で仕上げている。	か-99 東壁 ３層
第13図 2 図版14の 2	〃	8 4.7 2.2 163.5	淡い緑褐色を呈し、小ぶりな石器である。 刃部・表裏面に２次使用の敲き痕が残る。	か-99 石列 1層
第13図 3 図版14の 3	〃	9.2 4.6 2.1 85.9	淡い緑褐色を呈し、小ぶりな石器である。 １と同様に２次使用品である。	か-98 ３ａ層
第13図 4 図版14の 4	〃	9.4	淡い灰緑褐色を呈し、バチ形のものである。 周辺は丁寧に磨かれている。	か-98 東壁 ３層
第13図 5 図版14の 5	〃	13.3 5.2 2.6 261.6	変形した石材を用いたものである。淡い灰緑褐色を呈し、部分的に赤褐色が観察される。 基本バチ形のものである。	き-98 ２層
第14図 6 図版15の 6	敲石 ＋ 磨石	14.6 10.4 6.2 1500	淡い黄褐色を呈し、表面の右側はやや窪む。 敲き痕が表面、側面に残る.	か-99 ３層
第14図 7 図版15の 7	磨石	12 9.5 4.5 744.3	淡い灰褐色を呈し、やや偏平の磨石である。 かなり使用されたものと思われ、筋目が明瞭に観察できる。	き-98 ３層
第14図 8 図版15の 8	石皿	19 7 13.2 1800	淡い黄褐色を呈し、大型の石皿の破片である。	〃

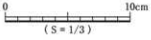


第13図（図版14）　石器（1～5）









第 14 図（図版 15）　石器（6～8）

第３節　骨製品

骨製品は骨鏃が１点、蝶型骨器１点、骨針が１点の合計３点出土した。第15図１は大型のエイの尾棘の先を加工した鏃状製品である。ほぼ原形を窺える資料で、全体的に丁寧に研磨が施されている。両端ののこぎり状の部分も若干研磨されている様子が窺える。また、身の中央部分が平たくなるように成形されており、両刃の方向に行くに従い薄くなるか、段差をつけている。また、刃の中央を片面のみ縦位に凹線がはしっている。長さ 50.59㎜、幅10.64㎜、厚さ4.45㎜、重量2.81g。カ－99の第３層から出土している。

第15図２は先端部分が欠損した骨針である。軸頂部と先端部が欠損しているが、全体的に研磨が施されている。長さ52.19㎜、幅7.98㎜、厚さ4.8㎜、重量2.41g。カ－99の第１層より出土している。

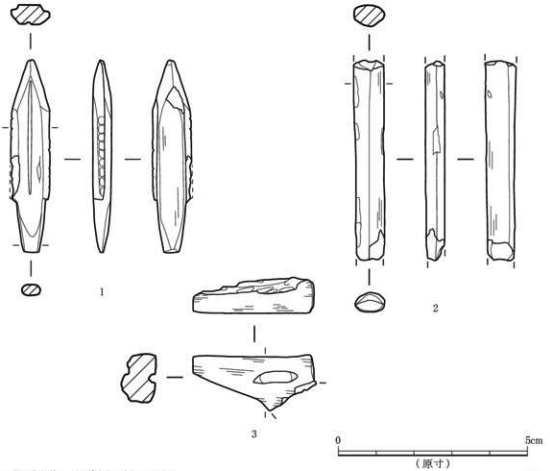
第15図３はウミガメの甲羅と思われるものを加工した、蝶型骨器の左側の羽根部の一部と思われる資料である。詳しい部位は特定できないが、全体的に研磨が施されており、中央部に楕円形の凹み文様が見られる。裏面はほぼ未加工のままである。長さ 32.15㎜、幅13.58㎜、厚さ8.45㎜、重さ2.32g。第15図１と同様、カ－99の第３層から出土している。

第４節　貝製品

貝製品は、貝錘が１点、ゴホウラ製貝輪が１点、ホラガイ製有孔製品１点の合計３点出土した。第16図１はリュウキュウサルボウを加工した貝錘である。殻頂部付近に穴を穿ち、腹縁部共に丸く成形している。縦幅 52.47㎜、横幅 70.46㎜、厚さ 6.6㎜、穴径は縦径が10.86㎜、横径が10.51㎜、重量45.39g。立会調査時に、第３図の立会調査④の地点より検出されている。

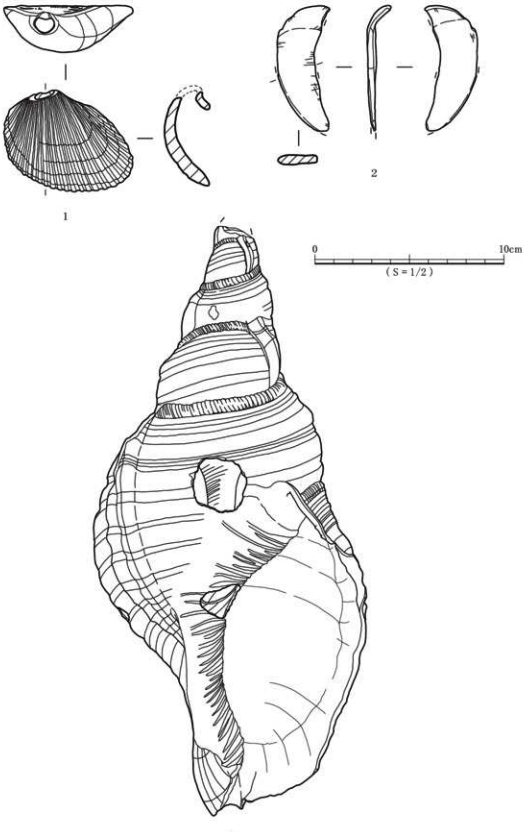
第16図２はゴホウラ製貝輪である。小型のゴホウラを利用したものである。風化が進んでおり、表面と裏面、外殻の一部は研磨される。最大長66.19㎜、最大幅20.25㎜、最大厚4.61㎜、重量8.97g。立会調査時に、第３図の立会調査③の地点より検出されている。

第16図３はホラガイ製有孔製品である。ホラガイの内唇と体層にそれぞれ１孔ずつ穿孔する。内唇側が20.32㎜×17.13㎜、体層側が28.05㎜×28.01㎜。最大長31.2㎝、殻径13.9㎝、重量529g。カ－98東壁の第３層より出土している。



第 15 図（図版3） 骨製品（1～3）

図版 3（第 15 図） 骨製品（1～3）



第16図（図版16）　貝製品（1～3）

第5節　骨類

第1,2表に示したとおり、骨類については1177点の出土数が確認された。その中で代表的な出土骨類を第 9 表に挙げる。天久貝塚出土の骨類について、魚類は多く見られる。最も多く出土していたものはイラブチャーなどのアオブダイ属であり、二番目に多く出土しているものはハリセンボンであった。その他にハタ、シロクラベラ、フエフキダイ、ウツボ、アナゴ、ガーラなどの大型アジ科、クロダイ属などが見られた。陸生哺乳類についてはリュウキュウイノシシが最も多く出土しており、ネズミ、オオコウモリ、イヌ、ネコが出土している。海生哺乳類についてはジュゴンおよびクジラの骨が確認された。爬虫類・両生類については、カエルが若干出土している。鳥類については検出されなかった。

第6節　貝類

第1,2表に示したとおり、貝類については6493点の出土数が確認された。第10表に示したとおり、巻貝23科93種、二枚貝17科48種の計40科141種が得られた。種別に見ていくと、シャコガイ科などのサンゴ礁に棲息するものやシオサザナミ科といった砂泥地に生息する貝類、そしてフトヘナタリ科といった内湾の浅い泥地に棲息する貝類などが確認された。詳細については第11～14表にまとめる。

第9表 骨類一覧

No.	名称	グリッド	出土地	部位	左右	写真番号
1	ネズミ	キ－98	3層	下顎骨	右	1
2	オオコウモリ	カ－98	東壁 3層	下顎骨	右・左	2
3	イヌ	カ－98	東壁 3層 50/60	上顎第四臼歯	左	3
4	ネコ	キ－98	3層	下顎骨	右	4a
		キ－99	2層	寛骨	右	4b
				上腕骨	左	4c
5	イノシシ	カ－98	東壁 3層	下顎骨	右	5
6	カエル	カ－98	3層　　3b層	四肢骨	—	6
7	リクガメ	キ－98	3層	腹甲板	—	7
8	ウミガメ	カ－98	東壁 3層	尺骨	右	8a
		カ－99	2層	四肢骨	—	8b
		カ－99	2層	肋骨板	—	8c
9	ハタ	カ－98	3層　　3b層	第一椎骨	—	9a
			東壁 3層	角骨	左	9b
10	クロダイ属	キ－98	3層	前上顎骨	左	10
11	ウツボ	カ－98	4層	歯骨	左	11a
			東壁 3層	歯骨	左	11b
12	シロクラベラ	カ－99	1層	下咽頭骨	—	12
13	モンガラカワハギ類	カ－98	東壁 3層	前頭上顎骨	右	13
14	大型アジ科	キ－98	2層	角骨	右	14a
				歯骨	右	14b
				主上顎骨	左	14c
15	アオブダイ属	キ－98	4層	下咽頭骨	—	15
16	スズメダイ	キ－98	4層	主上顎骨	—	16
17	クジラ(海獣類)	カ－99	3層	不明	—	17
18	ジュゴン	カ・キ－98	2層	頭骨(一部)	—	18

第10表　貝類種別一覧

	No.	科名	種名
巻貝	1	ｸｻｽﾘｶﾞｲ	不明
	2	ﾆｼｷｳｽﾞｶﾞｲ	ﾆｼｷｳｽﾞ
	3	ﾆｼｷｳｽﾞｶﾞｲ	ｷﾝﾀｶﾊﾏ
	4	ﾆｼｷｳｽﾞｶﾞｲ	ｻﾗｻﾔﾃｲ
	5	ﾆｼｷｳｽﾞｶﾞｲ	ｹｻｲﾛｲｼﾀﾞﾀﾐ
	6	ﾆｼｷｳｽﾞｶﾞｲ	ｵﾆﾉﾊ
	7	ﾆｼｷｳｽﾞｶﾞｲ	不明
	8	ｻｻﾞｴ	ﾘｭｳﾃﾝ
	9	ｻｻﾞｴ	ﾔｺｳｶﾞｲ
	10	ｻｻﾞｴ	ﾔｺｳｶﾞｲ（フタ）
	11	ｻｻﾞｴ	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ
	12	ｻｻﾞｴ	ﾁｮｳｾﾝｻｻﾞｴ（フタ）
	13	ｻｻﾞｴ	ｺｼﾀｶｻｻﾞｴ
	14	ｻｻﾞｴ	ｺｼﾀｶｻｻﾞｴ（フタ）
	15	ｻｻﾞｴ	ｽｶﾞｲ
	16	ｻｻﾞｴ	ｶﾝｷﾞｸ
	17	ｻｻﾞｴ	ｶﾝｷﾞｸ（フタ）
	18	ｻｻﾞｴ	不明
	19	ｻｻﾞｴ	不明（フタ）
	20	ｱﾏｵﾌﾞﾈｶﾞｲ	ｲﾝﾀﾞﾀﾆｱﾏｵﾌﾞﾈ
	21	ｱﾏｵﾌﾞﾈｶﾞｲ	ﾋﾒｲﾝﾀﾞﾀﾐｱﾏｵﾌﾞﾈ
	22	ｱﾏｵﾌﾞﾈｶﾞｲ	ｱﾏｵﾌﾞﾈｶﾞｲ
	23	ｱﾏｵﾌﾞﾈｶﾞｲ	ﾆｼｷｱﾏｵﾌﾞﾈ
	24	ｱﾏｵﾌﾞﾈｶﾞｲ	ﾑﾗｻｷﾓｶﾉｺ
	25	ｱﾏｵﾌﾞﾈｶﾞｲ	不明
	26	ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ	ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ
	27	ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ	ｺｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ
	28	ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ	ｶﾀﾂﾉﾌﾞｴ
	29	ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ	ｺｹﾞﾂﾉﾌﾞｴ
	30	ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ	ｳﾆｰﾅｶﾆﾓﾘ
	31	ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ	ﾐﾂｶﾄﾞｶﾆﾓﾘ
	32	ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ	ﾋﾒｶﾆﾓﾘ
	33	ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ	ｶﾆﾓﾘｶﾞｲ
	34	ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ	不明
	35	ｳﾐﾆﾅ	ﾘｭｳｷｭｳｳﾐﾆﾅ
	36	ﾌﾄﾍﾅﾀﾘ	ﾍﾅﾀﾘ
	37	ﾌﾄﾍﾅﾀﾘ	ｶﾘﾌｱｲ
	38	ﾌﾄﾍﾅﾀﾘ	ﾏﾄﾞﾓﾁｳﾐﾆﾅ
	39	ﾌﾄﾍﾅﾀﾘ	ｾﾝﾆﾝｶﾞｲ
	40	ﾀﾏｷﾋﾞ	ｶｽﾘｳｽﾞﾗﾀﾏｷﾋﾞ
	41	ｿﾃﾞﾎﾗ	ﾌﾄｽﾑｼﾞｶﾆﾀﾓﾄ
	42	ｿﾃﾞﾎﾗ	ﾏｶﾞｷｶﾞｲ
	43	ｿﾃﾞﾎﾗ	ｺﾞﾎｳﾗ
	44	ｿﾃﾞﾎﾗ	ｸﾓｶﾞｲ
	45	ｿﾃﾞﾎﾗ	ﾗﾀﾞｶﾞｲ
	46	ｿﾃﾞﾎﾗ	ｽｲｼﾞｶﾞｲ
	47	ｿﾃﾞﾎﾗ	不明
	48	ﾀｶﾗｶﾞｲ	ﾔｸｼﾏﾀﾞｶﾗ
	49	ﾀｶﾗｶﾞｲ	ﾋﾒﾎｼﾀﾞｶﾗ
	50	ﾀｶﾗｶﾞｲ	ﾎｼｷｽﾀ
	51	ﾀｶﾗｶﾞｲ	ｷﾝｶﾝﾀﾞｶﾗ
	52	ﾀｶﾗｶﾞｲ	ﾊﾅﾋﾞﾗﾀﾞｶﾗ
	53	ﾀｶﾗｶﾞｲ	不明
	54	ﾀﾏｶﾞｲ	ﾇﾉﾒﾘｽｶﾞｲ
	55	ｵｷﾆｼ	ｵｷﾆｼ
	56	ﾔﾂｼﾛｶﾞｲ	ｽｸﾐｸｽﾞﾗｶﾞｲ
	57	ﾌｼﾞﾂﾀﾞｶﾞｲ	ﾎﾟｳｼｮｳｶﾞﾗ
	58	ﾌｼﾞﾂﾀﾞｶﾞｲ	ﾎﾗｶﾞｲ
	59	ﾌｼﾞﾂﾀﾞｶﾞｲ	ｼﾛｼﾉﾏｷ
	60	ﾌｼﾞﾂﾀﾞｶﾞｲ	不明
	61	ｲﾎﾞﾎﾞﾗ	不明
	62	ｱｯｷｶﾞｲ	ｳﾆﾚｲｼ
	63	ｱｯｷｶﾞｲ	ﾃﾂﾚｲｼ
	64	ｱｯｷｶﾞｲ	ﾂﾉﾃﾂﾚｲｼ
	65	ｱｯｷｶﾞｲ	ﾚｲﾝﾀﾞﾏｼﾓﾄﾞｷ
	66	ｱｯｷｶﾞｲ	ｼﾗﾀﾓｶﾞｲ
	67	ｱｯｷｶﾞｲ	不明
	68	ｴｿﾞﾊﾞｲ	ﾋｻｺﾎﾗﾀﾞﾏｼ
	69	ﾃﾝｸﾞﾆｼ	ﾃﾝｸﾞﾆｼ
	70	ｲﾄﾏｷﾎﾞﾗ	ｲﾄﾏｷﾎﾞﾗ
	71	ｲﾄﾏｷﾎﾞﾗ	ﾁﾄｾﾎﾞﾗ
	72	ｲﾄﾏｷﾎﾞﾗ	ﾐｶﾞﾀｷｶﾞﾆｼ
	73	ｲﾄﾏｷﾎﾞﾗ	ﾊｼﾅｶﾞﾆｼ
	74	ｲﾄﾏｷﾎﾞﾗ	不明
	75	ﾏｸﾗｶﾞｲ	ﾀｶｻｺﾞﾋﾞﾅ
	76	ﾌｸｼｶﾞｲ	不明
	77	ｲﾓｶﾞｲ	ﾅﾝﾖｳｸﾛﾐﾅｼ
	78	ｲﾓｶﾞｲ	ｱﾝﾎﾟﾝｸﾛｻﾞﾒ
	79	ｲﾓｶﾞｲ	ｸﾛﾌﾓﾄﾞｷ
	80	ｲﾓｶﾞｲ	ｸﾛｻﾞﾒﾓﾄﾞｷ
	81	ｲﾓｶﾞｲ	ﾊﾙｼｬｶﾞｲ
	82	ｲﾓｶﾞｲ	ﾀﾞｲｺｳｲﾓ
	83	ｲﾓｶﾞｲ	ﾏﾀﾞﾗｲﾓ
	84	ｲﾓｶﾞｲ	ｻﾔﾀﾞｶｲﾓ
	85	ｲﾓｶﾞｲ	ﾓﾙｯｶｲﾓ
	86	ｲﾓｶﾞｲ	ｻﾗｻﾐﾅﾐｼﾓﾄﾞｷ
	87	ｲﾓｶﾞｲ	ｽｼﾞﾋﾗﾏｷｲﾓ
	88	ｲﾓｶﾞｲ	ｺｷｶﾞｲﾓ
	89	ｲﾓｶﾞｲ	ﾔｺｲﾓ
	90	ｲﾓｶﾞｲ	ﾅｶﾞｻﾗｻﾐﾅﾐｼ
	91	ｲﾓｶﾞｲ	ｴﾝﾏﾉﾒ
	92	ｲﾓｶﾞｲ	ｷﾇｶﾂｷﾞｲﾓ
	93	ｲﾓｶﾞｲ	不明
	94	ﾏｲﾏｲ	
二枚貝	95	ﾌﾈｶﾞｲ	ｴｶﾞｲ
	96	ﾌﾈｶﾞｲ	ｶﾘｶﾞﾈｴｶﾞｲ
二枚貝	97	ﾌﾈｶﾞｲ	ｸﾛｽﾉｴｶﾞｲ
	98	ﾌﾈｶﾞｲ	ﾘｭｳｷｭｳｻﾙﾎﾟｳ
	99	ﾌﾈｶﾞｲ	ﾊｲｶﾞｲ
	100	ﾌﾈｶﾞｲ	不明
	101	ｳｸﾞｲｽｶﾞｲ	ｸﾛﾁｮｳｶﾞｲ
	102	ﾐﾉｶﾞｲ	ﾐｶﾞｲ
	103	ﾍﾞｯｺｳｶﾞｷ	ｼｬｺｶﾞｷ
	104	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	ﾏｶﾞｷ
	105	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	ｺｶﾞﾈｶﾞｷ
	106	ﾂｷｶﾞｲ	ｸﾁﾍﾞﾆﾂｷｶﾞｲ
	107	ﾂｷｶﾞｲ	ｳﾗｷｭｳｷｶﾞｲ
	108	ﾂｷｶﾞｲ	不明
	109	ｶｺﾞｶﾞｲ	ｶｺﾞｶﾞｲ
	110	ｻﾞﾙｶﾞｲ	ﾅｶﾞｻﾞﾙ
	111	ｻﾞﾙｶﾞｲ	ﾘｭｳｷｭｳｻﾞﾙ
	112	ｼｬｺｶﾞｲ	ｼｬｺｳｶﾞｲ
	113	ｼｬｺｶﾞｲ	ﾋﾒｼｬｺｶﾞｲ
	114	ｼｬｺｶﾞｲ	ﾋﾚｼｬｺｶﾞｲ
	115	ｼｬｺｶﾞｲ	ｼﾗﾅﾐｶﾞｲ
	116	ｼｬｺｶﾞｲ	ﾋﾚﾅｼｼｬｺｶﾞｲ
	117	ｼｬｺｶﾞｲ	不明
	118	ﾁﾄﾞﾘﾏｽｵ	ｲｿﾊﾏｸﾞﾘ
	119	ﾁﾄﾞﾘﾏｽｵ	ﾅﾐｺﾏｽｵ
	120	ﾆｯｺｳｶﾞｲ	ﾆｯｺｳｶﾞｲ
	121	ﾆｯｺｳｶﾞｲ	ｻﾒｷﾞﾗ
	122	ﾆｯｺｳｶﾞｲ	ﾘｭｳｷｭｳｼﾗﾄﾘ
	123	ﾆｯｺｳｶﾞｲ	ﾓﾁﾌﾞｷｻﾞﾗ
	124	ﾆｯｺｳｶﾞｲ	不明
	125	ｱｻｼﾞｶﾞｲ	ｱｻｼﾞｶﾞｲ
	126	ｱｻｼﾞｶﾞｲ	ｻﾒｷﾞﾗﾓﾄﾞｷ
	127	ｼｵｻｻﾞﾅﾐ	ﾏｽｴｶﾞｲ
	128	ｼｵｻｻﾞﾅﾐ	ﾘｭｳｷｭｳﾏｽｵ
	129	ｷﾇﾀｱｹﾞﾏｷ	ｽﾝｸﾞﾘｱｹﾞﾏｷ
	130	ﾌﾅｶﾞﾀｶﾞｲ	ﾀｶﾞﾉﾂﾞﾓﾄﾞｷ
	131	ｼｼﾞﾐ	ﾘｭｳｷｭｳﾋﾙｷﾞｼｼﾞﾐ
	132	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｱﾗｽﾉﾒｶﾞｲ
	133	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｽﾉﾒｶﾞｲ
	134	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｱﾗｽｼﾞｹﾞﾏﾝｶﾞｲ
	135	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｲﾅﾐｶﾞｲ
	136	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｳｽﾊﾏｸﾞﾘ
	137	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｶｶﾞﾐｶﾞｲ
	138	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ﾀﾏｶｶﾞﾐ
	139	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｳﾗｶｶﾞﾐ
	140	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｻｻﾒｶﾞｲ
	141	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｵｷｼｼﾞﾐ
	142	ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	不明

第11表　貝類出土一覧表(巻貝)<層序>

| 科名 | 種名 | 巻数 | 1層 | | | 2層 | | | 3層 | | | 3a層 | | | 3b層 | | | 3c層 | | | 4層 | | | 編年遺構 | 5層 | | | 5a層 | | | 5b層 | | | 5c層 | | | 5d層 | | | 6層 | | | 7層 | | | 8層 | | | 9層 | | | 10層 | | | 11層 | | | 12層 | | | 13層 | | | 14層 | | | 15層 | | |

科名	種名	年齢	0-10								10-20														20-30												30-40												40-50												合計							
			1期				2期				1期				2期				編集過程				3期				1期				2期				3期				1期				2期				3期				4期				1期				2期				4期				3期							
			北海	東北	関東	東海	北海	東北	関東	東海	北海	東北	関東	東海	北海	東北	関東	東海	北海	東北	関東	東海	北海	東北	関東	東海	北海	東北	関東	東海	北海	東北	関東	東海	北海	東北	関東	東海	北海	東北	関東	東海	北海	東北	関東	東海	北海	東北	関東	東海	北海	東北	関東	東海	北海	東北	関東	東海	北海	東北	関東	東海	北海	東北	関東	東海				
ヤマウズラ亜	雷鳥	1																	1																																																9				
	ハシボソ	2			1														5																																															2	5	20	
	ヒシクイ	3																																																																1	1	10	
ハクガン亜	マガモ(ガモ)	4	1	1	1																		1					2			1	8	1		1																												5	3	11	38	
	ヒドリガモ	5																																																																3			
	オシドリ	6																																																																1			
	雷鳥	7			1																						1		1		1		1																														1	6	5	19	
キツネ	ミンダナー	8																																																																2	2		
	ヤマドリ	9							1										1								2																																						1	1	16	
	ヤマドリ(ブリ)	10			1				1																								1																																	1		6	
	ヤンバルクイナ	11		1	1		1				1								1	1							1				1	1	1	1	10																											1		16	30	
	ヤンバルクイナ(ブリ)	12	1			1													1															2																													1	1	1	
	シノリガモ	13	1	1																											1	1		2																													1	12	10	5	
	ツンドラヤチ(ブリ)	14	1																					2																																								1	3		
	ワタリ	15	1																								1																																					1	3		
	ヒメヒ	16			1	1															1		1	1	1		3																																				9	16	11	
	ヒメヒ(ブリ)	17																															1																															2			
	雷鳥	18																																																																5			
	雷鳥(ブリ)	19																	1																																														2			
アマツバメ亜	ジュウシマツ(ブリ)*	20		1	1	1																																																											6	3	9	
	ヨーロッパスズメ(ブリ)	21																																																																3			
	ツバメ(ブリ)	22	1																														1		1																													6	1	2	
	ニシキヒメ(ブリ)	23																																																																	1		
	ムクドリ(ブリ)	24																																																																2	1		
	雷鳥	25	1																														1	2	2																													2	1	9	
オシドリ亜	ヤンバルクイナ	26																																																																	1	1		
	ハヤシバトブリ	27		1																																																															3	6	1	
	カラスバト	28																																																																	1			
	ハクセキレイ	29																																																																	1			
	ヒクイナ(ブリ)	30																						1																																														
オシドリ亜	ヒクイナ(カイツブリ)	31																																																																	1	6	1	
	ヒメウ	32	1																																																																1	12	1	4	
	ヒシクイ	33																																																																	1			
	カモ	34																																																																	1			
	雷鳥	35																																																																	1			
ウミスズメ亜	ウミスズメ	36																																																																	1			
	ヤマドリ	37																																																																	3	1		
	ハシブトガラス	38	1	1	4				1	1									1					1			1	1	3		4	1	1	3	4	13	13	9																							6	1	1		1	1	79	
ヤマドリ亜	ウンピン	39	1	1	3				1												2	1	1		2	1	1			1		5	3																													1	1	1	15	41	35	
	ヨーロッパスズメ(ブリ)	40																																																																	1	1	15	20	
	ブラムレンジ(ブリ)	41																																																																				1		
ヤマドリ亜	ヤマドリ	42	1	1	4	1				1									1	1		1		1		1		1	3	1	4	1	7																													1	1	1	1	12	41	41	
	ノガモ	43				1																																																														1			
	ツクシガモ	44																	1	1									2			3																																			6	1	14	
	ツクシガモ	45																																																																				1			
	キンクロハジロ	46																																																																				3			
	雷鳥	47			1																		1						2			3																																			1		43	
キツネ亜	ヤブツバメ(ブリ)	48																																																																		1			
	ミヤコドリ	49																																																																				1			
	ヒバリ(ブリ)	50																																																																				1			
	雷鳥	51																					1																																													10	6	7	
	雷鳥	52		1	12														1		2				10	2		2	4	15																																			5	4	6	94	
チドリ亜	ハシボソガラス	53		1																																																																	1			
ホモシ	ホモシ	54																																																																							2		
ヒクイナ亜	スズガモ(ブリ)	55									1																																																									1			
	ホウロクシギ	56																																																																							1			
フンボウ亜	ヨウガン	57			1														1				1						1																																							1	1	20	
	ハシブトガラス	58																																																																						2			
	雷鳥	59			1																																																																			4			
ヒドリガモ亜	雷鳥	60			1																																																																		1			
	ツバメ(ブリ)	61																																																																										
	アカウミ(ブリ)	62																																																																										
アメ亜	ヨシゴイ(ブリ)*	63																																																																										
	シロチドリ	64																																																																										
	雷鳥	65																																																																										
ムクドリ亜	ヤマ(ブリ)*	66																																																																									
ヤンボウ亜	ヤンボウ	67																																																																										
ヒバリ亜	ヒバリ	68																																																																										
ヒタキ亜	ヒタキ(ブリ)	69																																																																										
	ムクドリ	70																																																																										
	ヒヨドリ(ブリ)	71																																																																										
	ヒヨドリ	72																																																																										
	ツバメ(ブリ)	73																																																																										
	雷鳥	74	1		1				1										1																																																						
ヤブサメ亜	ヤブサメ	75																																																																									
ウグイス亜	雷鳥	76																																																																									
	ヤンバルクイナ	77																	1								1																																											
	アメリカ(ブリ)	78			1																																																																		
	ウグイス	79																																																																									
	ヤブサメ(ブリ)	80						1																																																																	
	ヤキョウ(ブリ)	81																																																																										
	メボソ(ブリ)	82																																																																										
	メボソ(ブリ)	83	4	1	7				1										1		1		2						1	1	1	1																																			1	17	5	14	
	ヤナギ(ブリ)	84																							1	1																																													1		
	ウタツ(ブリ)	85																																																																									
	ウタツ(ブリ)(ヒ)	86																																																																										
	ヒバリ(ブリ)	87																																																																										
	ムシクイ(ブリ)	88																																																																										
	メジロ	89																																																																										
	雷鳥	90																																																																										
	ヤブサメ(ブリ)	91																																																																										
	ヤブサメ(ブリ)(ヒ)	92																																																																										
	ムシクイ(ブリ)	93																																																																										
	ヤナギ(ブリ)	94																																																																										
	ムシクイ(ブリ)	95																																																																										
	ヒヨドリ(ブリ)	96																																																																										
	ヤブサメ(ブリ)	97																																																																										
	ウタツ(ブリ)	98																																																																										
	ムシクイ(ブリ)	99																																																																										
	ヒヨドリ(ブリ)	100																																																																										
	ヤブサメ(ブリ)	101																																																																										
	雷鳥	102		1	4							1			1		1				1		1	1	1	4		1		1	4	1																																															
イモリ亜	イモリ	103	130	67	226	26	6	33	6	1	3	5		3		1				2	5	32	12	88	26	29	111	139	67	221																																																			
雷鳥	雷鳥	104	1	7	18		1	1																	15			22	1	1	39																																					8	10	7	192
合 計		105	165	112	29	10	14	9	2	3	6		3	7	4	11	4	10	11	50	22	137	31	31	142	165	103	229		4	1	3			3	57	11	95	26	4	38	1064	777	2411
鳥 種 数			28			20			11			6			11			13			61			42			28																																																

第 12 表　貝類出土一覧(二枚貝)<層序>

| 二枚貝 | | | カ-98 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | カ・キ-98 | | | | | | | | | カ-99 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 二枚貝 | | | キー97 | | | キー98 | | |

第 13 表　貝類出土一覧(巻貝)＜層序以外＞

巻貝			方一98						方一99			立合調査区			合計		
			東堀 3層			3a層			3層			東堀 3層					
科名	種名	生態	完形	破損	破片	完形	破損	破片	完形	破損	破片	完形	破損	破片	完形	破損	破片
ｻｻﾉﾊｶﾞｲ	ﾋﾒﾎﾞﾀﾙ	海															
	ﾆｼﾉﾐﾔｶﾞｲ	海	1												1		
	ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ	海															
ﾆｼｷﾉﾂﾉｶﾞｲ	ｱﾗﾚﾒﾂﾉｶﾞｲ	海	1	1		1		1	1						2	1	
	ﾏﾂﾔﾏﾆｼｷﾉﾂﾉｶﾞｲ	海	1														
	ﾎﾗｶﾞｲ	海	1														
	ｲﾓﾏﾂﾎﾞﾗ	海															
	ｴﾄﾞﾎﾞﾗ	海						1							1		
	ﾌﾟﾗﾉﾐ	海	1														
	ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ	海															
	ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ(ﾔﾏﾄ)	海	1					1							1		
	ﾌﾟﾗﾉﾐ･ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ	海						1							1		
	ﾌﾟﾗﾉﾐ･ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ(ﾔﾏﾄ)	海	1	1		1						1			3		1
ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ	ﾋﾒﾎﾞﾀﾙ	海	1			1		2	2						4		2
	ﾋﾒﾎﾞﾀﾙ(ﾔﾏﾄ)	海	1			1		2	2						4		2
	ﾎﾗｶﾞｲ	海															
	ﾋﾒﾎﾞﾀﾙ	海				1		1							1		1
	ﾋﾒﾎﾞﾀﾙ(ﾔﾏﾄ)	海															
	ﾎﾗｶﾞｲ	海															
	ﾋﾒﾎﾞﾀﾙ	海				1									1		
	ﾋﾒﾎﾞﾀﾙ(ﾔﾏﾄ)	海		1													1
ｱﾜﾋﾞﾀﾞﾏｷ	ｲﾝﾉﾎﾞﾀﾞﾏｷ	海					1								1		
	ｱﾜﾋﾞﾀﾞﾏｷｱｶﾊﾞﾀﾞﾏｷ	海															
	ｱﾜﾋﾞﾀﾞﾏｷ	海															
	ｺﾐｶﾄﾞﾏｷﾎﾞﾀﾞﾏｷ	海															
	ｺﾐｶﾄﾞﾏｷ	海															
	ﾎﾞﾀﾞﾏｷ	海				1	1								2		
ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ	ﾌｼﾞﾂﾎﾞﾗ	海															
	ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ	海															
	ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ(ﾔﾏﾄ)	海															
	ﾎﾗｶﾞｲ	海															
	ﾎﾗｶﾞｲ(ﾔﾏﾄ)	海															
	ﾎﾗｶﾞｲ	海															
	ﾎﾗｶﾞｲ(ﾔﾏﾄ)	海		1													
ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ	ｲﾝﾉﾎﾞﾀﾞﾏｷﾎﾞﾀﾞﾏｷ	海															
	ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲｱｶﾊﾞﾀﾞﾏｷ	海															
	ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ	海															
	ｺﾐｶﾄﾞﾏｷ	海					1								1		
	ｺﾐｶﾄﾞﾏｷﾎﾞﾀﾞﾏｷ	海															
	ﾎﾗｶﾞｲ	海															
	ﾎﾗｶﾞｲ(ﾔﾏﾄ)	海															
	ﾎﾗｶﾞｲ	海															
	ﾎﾗｶﾞｲ(ﾔﾏﾄ)	海		1													
ｵﾆﾉﾂﾉｶﾞｲ	ﾌｼﾞﾂﾎﾞﾗ	海															
	ﾎﾗｶﾞｲ	海															
	ﾎﾗｶﾞｲ(ﾔﾏﾄ)	海															
	ﾎﾗｶﾞｲ	海															
	ﾎﾗｶﾞｲ(ﾔﾏﾄ)	海	

第Ⅵ章　まとめ

本遺跡は第Ⅱ章でも述べたように、天久丘陵（琉球石灰岩）の崖下に形成された貝塚である。このような立地は、沖縄新石器時代前Ⅳ期の中・南部に見られる典型的な貝塚のあり方である。住居は崖上に竪穴住居が立地することが古我地原貝塚[註1]などで確認されている。本貝塚の住居址も崖上に立地していたものと想定される。

層序は地山まで含めて 5 層を数えるが、うち明確な文化層は 3 層である。基本的に上部からの流れ込みが堆積したもので、琉球石灰岩・微粒砂岩等の転石の混入が著しく見られた。

人工遺物は土器・石器・貝器・骨器などが得られた。土器は、古我地原式土器・荻堂式、室川式土器などが見られたが、メインは大山式土器であった。石器は敲石・磨石が多く見られた。石斧類も得られたが、その多くも敲石等に 2 次使用されたものであった。その中で、骨製品の第 15 図 1 に示したエイの尾棘（尻尾）を精巧に加工した鏃状骨製品の出土は特筆された。また、蝶型骨製品の出土も見られ、同じ丘陵沿いの崎樋川貝塚[註2]でも出土しており、その関連性が気になるところである。

自然遺物は貝類・骨類が得られた。検出された貝類は、生息域がサンゴ礁域・潮間帯中～下部・砂底・河口干潟・マングローブ域と多種に富んだ生息域の貝類が確認された。同時期の県内遺跡における出土貝類と傾向は類似しており、本遺跡前面に広がるリーフや周辺に位置する安里川・安謝川等のマングローブ域から貝類の採取があったことを想起させるものである。骨類は全体出土数と比較して、種類が多いことが特徴にあげられる。魚骨や海獣類などの海生動物の骨類が多く出土しているが、リュウキュウイノシシ、ヤマガメ、ネズミ、オオコウモリといった陸生動物の骨類も検出されている。またリュウキュウイノシシの骨の中には、切断痕や線状痕が検出された骨が確認された。

以上のことより、本遺跡は沖縄新石器時代の前Ⅳ期の中頃から後半の時期の貝塚と想定された。市内では、対岸の小録台地に立地する鏡水名座原Ａ遺跡[註3]とほぼ同じ時期の遺跡かと考える。調査範囲は約 16 ㎡という小範囲の調査であったが、当該期の生活・文化を考える上で内容の濃い調査を提供したものと考える。また、今回の本貝塚の発見で、既に壊滅したと思われている先史時代の遺跡について、改めて丁寧な調査の必要性を喚起した調査でもあった。

註１：島袋洋他「古我地原貝塚」沖縄県教育委員会　1987 年
註２：島田貞彦「崎樋川貝塚」「歴史と地理 30-5」歴史地理学同政会　1932 年
註３：北條真子・伊波かおり他「鏡水名座原Ａ遺跡」那覇市教育委員会　2011 年

図　版

図版 4　調査区の状況
1段目：遺跡の遠景
2段目：調査区の近景
3段目：調査状況

図版 5　遺構の検出状況と完堀状況
1 段目：礫敷遺構検出状況
2 段目：礫敷遺構完堀状況
3 段目：完堀状況

図版 6　遺物出土状況

1 段目：カ -98　土器出土状況

2 段目：カ -98 東壁　大山式土器出土状況

3 段目：カ -98 東壁　荻堂式土器出土状況

図版 7　遺物出土状況

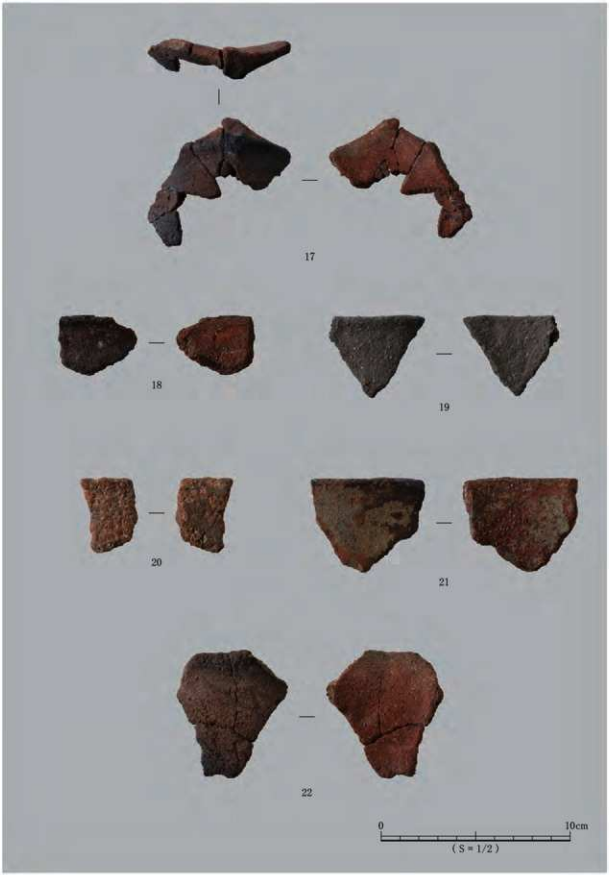
1 段目：カ -99　遺物出土状況
2 段目：カ -99　石器出土状況
3 段目：カ -99 東壁　ホラガイ製有孔孔製品出土状況

図版 8　資料整理作業風景
1段目：洗浄
2段目：ナンバーリング
3段目：集計作業

図版 9　資料整理作業風景
1 段目：遺物実測・トレース
2 段目：実測図版　レイアウト
3 段目：写真図版　レイアウト

図版 10（第９図）　土器（１～８）

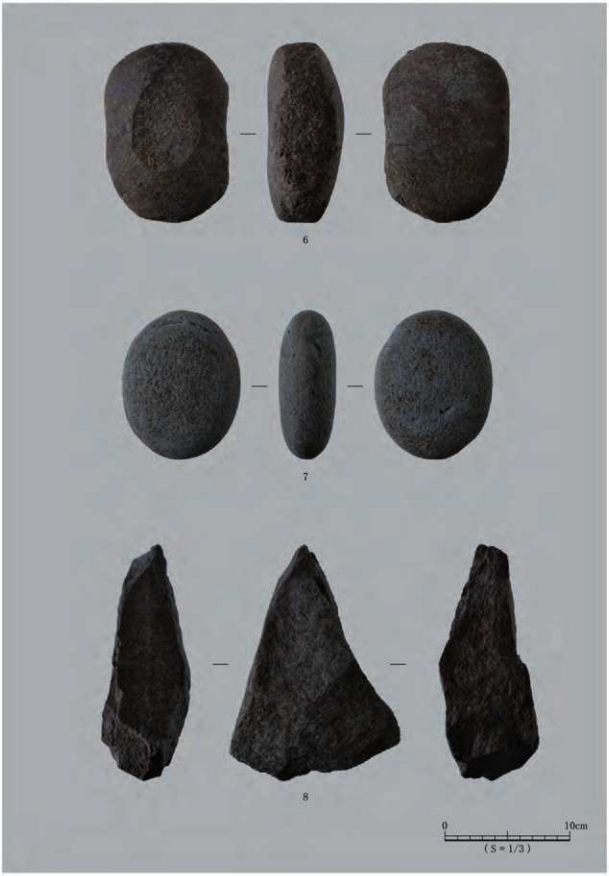
図版 11（第 10 図）　土器（9 ～ 16）



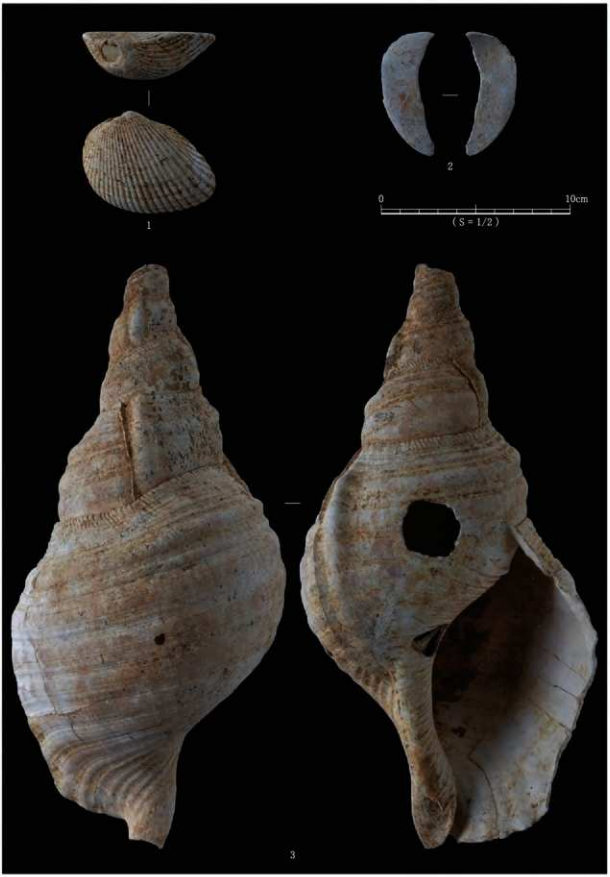
図版 12（第 11 図）　土器（17 ～ 22）

図版 13（第 12 図）　土器（23 ～ 27）

図版 14（第 13 図）　石器（1 ～ 5）



図版 15（第 14 図） 石器（6～8）



図版 16（第 16 図）　貝製品（1～3）

1
3
6
7
2
4a
4b
4c
8b
5
8a
8c
9a
9b
10
11a
11b
12
13
14a
14b
14c
15
16
17
18
0
5cm
(75%縮小)

図版 17　骨類

4
11
38
39
42
44
53
58
70
96
103
64
83
105
107
113
128
131
134
0
10cm
（46%縮小）

図版 18　貝類

那覇市文化財調査報告書第 103 集

天久貝塚

―天久急傾斜地崩壊対策事業に伴う緊急発掘調査報告書―

発行　2016 年 3 月 25 日
那覇市市民文化部文化財課
〒900-8585　那覇市泉崎 1-1-1
編集　那覇市市民文化部文化財課
ＴＥＬ　098-917-3501
ＦＡＸ　098-917-3523
印刷　株式会社　池宮商会
〒900-0015　沖縄県那覇市久茂地 2-4-23
ＴＥＬ　098-861-4005